

# 賛助広告ご協力企業・団体等一覧

広告サイズ	企業・団体等名称	ご協力者氏名 ※広告受者	(卒業年・科)	所 属	掲載ページ	
L(h4)	カラー 鎌田工業株式会社	鎌田 満雄	(S27C)	東京秋工会	裏表紙	
	カラー アイシン産業株式会社	宮川 良一	(S34M)	東京秋工会	裏表紙	
L(h3)	カラー サンパウロ・ラーメン餃子専門店「あすか」	伊藤 武	(S36E)	東京秋工会 ブラジル在住	58	
L	カラー 前田道路株式会社	大西 國雄	-	-	15	
	カラー 塚本総業株式会社	-	-	-	58	
	カラー 東神興業株式会社	夏井 雅樹	(S58M)	東京秋工会	26	
	Aターンプラザ秋田	-	-	-	50	
	澤木萬國特許事務所	澤木 誠一	(S26E)	東京秋工会	5	
	合同会社アーバン・コンサルタント	三平 俊悦	(S39A)	-	4	
M	カラー テンシャル株式会社	大塚 廉造	(S32K)	東京秋工会	11	
	カラー 株式会社オー・ティー・ティー・エス	田中 誠悦	(S32K)	東京秋工会	32	
	カラー 労働安全コンサルタント	小野 鐵雄	(S38C)	東京秋工会	8	
	カラー 伊藤貴金属店	赤塚 京二	(S40C)	秋田本部	35	
	カラー 株式会社三山コンサルタンツ	佐々木 進	(S40S)	東京秋工会	28	
	カラー 株式会社ジオ	佐々木 進	(S40S)	東京秋工会	29	
	カラー リフォームのYK	大澤 隆夫	(S42M)	東京秋工会	23	
	カラー 矢島鉄筋工業株式会社	館岡 正一	(S43A)	東京秋工会	31	
	カラー アルカディア市ヶ谷	-	-	-	22	
	カラー 株式会社KM	伊藤 幹夫	(S46A)	東京秋工会	7	
	カラー みちのく秋田◇赤い靴の女の子 制作委員会	大山 雅義	(秋田中央高校出身)	-	19	
	カラー プランニング&デザイン_KFワークス	船木 一美	(S48M)	東京秋工会	12	
	株式会社渡辺佐文建築設計事務所	渡邊 佐文	(S25A)	秋田本部	25	
	有限会社桑原電設	桑原 栄治	(S50E)	秋田本部	9	
	伊藤工業株式会社	伊藤 満	(S54C)	秋田本部	21	
	地鶏串焼割烹「音羽亭」	-	-	-	44	
	株式会社大石建設	大石 昭彦	(ゴルフ同好会ゲスト)	-	40	
	株式会社東日本メモリアルサービス	成田 竜也	(鷹巣高校出身)	-	24	
	S	カラー 株式会社北勢工業	太田 博之	(S56K)	秋田本部	34
		株式会社汎建築設計事務所	鈴木 誠一	(S38A)	秋田本部	49
YNファイル		柳田 憲夫	(S43S)	東京秋工会	33	
株式会社償 研		池田 昌憲	(S47A)	秋田本部	49	
彩光建設株式会社		下總 勉	(S47A)	東京秋工会	51	
コフティ株式会社		菅原 秀樹	(S54M)	東京秋工会	34	
有限会社ワシヤプロモーション		鷲谷 透	(S56M)	東京秋工会	51	

以上34の企業・団体・個人の皆様からご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

## 編集後記

昨年の総会（金砂健児の集い）の終盤に応援歌を斉唱した時のことだ。秋工時代に吹奏楽をしていた経験からか、「オヤ！」と思った。それは必勝の歌の「～松の緑は～」の歌詞で、「緑は」の「は」を一拍で音頭を取っていた。しかしこれでは「松のみどり」の「のみ」の音が詰まってしまう不自然になる。本来は「松の」の「の」を一拍にするはずと思って、本会のホームページで応援歌を確認してみた。そしたらやはり私のリズムと同じであった。秋工に入学すると、科の先輩から応援歌を叩き込まれた。これは良い面もあるが悪い面もあって、間違えて覚えたリズムは先々まで間違っ続けて継承される。不自然なリズムで音頭を取ったのは、その科の先輩のどれかが間違っって伝えたためだろう。ところで、現在の母校では先輩による応援歌の指導がなくなったようだ。これも良い面と悪い面があって、間違っったリズムが継承されないなどの一方で、応援歌そのものが継承されないことだ。これも寂しいことだが、時代が変わったためと思って受けざるを得ない。

編集長 嵯峨 良平 (S43E)

今回27号となった会報KANASAIは、1993年に第1号が発行されており、東京秋工会のホームページに全号が掲載されている。第1号で当時の澤木会長が会報の重要な目的の一つが「会の記録を残す資料」であると述べている。

以前、奥山副会長からKANASA全号のコピーを依頼されたがホームページ担当になった当時は余裕がなかったため、嵯峨氏にコピーして頂いた。

2009年に役員になり会報編集やホームページ担当として、直接お会いする機会がなかった諸先輩の情報に接し、会の歴史を振り返る資料としても、大変参考にさせてもらっている。

副編集長 赤川 均 (S41E)

副会長の地主勝己さん(S37C)が今年2月に亡くなられた。地主さんは自分にとって存在の大きい忘れられない先輩の一人だ。もう実家も無い故郷の秋田市ではあるが、子供の頃から可愛がってくれたおじさん、おばさんがいる。今はそのお宅が実家のようなもの。二十数年前のこと。秋田に行った折におばさんから「地主さんて知ってるか？」と聞かれたことがあった。その時は聞き覚えがなかった。それから少し後のこと、当時は参加していた東京秋工会ゴルフコンペの席で、たまたま隣り合ったグループから「俺も秋工出身だ」と名乗り出て来た人がいた。それが地主さんだった。その後会の役員となった地主さんに「割山の加賀屋さんって知ってますか？」と聞いてみた。するとおとうと嬉しそうに、地主さんの妹さんとおばさんが親戚のようなつきあいをしている、自分も家にお邪魔したことがあると答えてくれた。奇遇な縁だった。以来冗談半分に私のことを「これは俺の親戚だ」と言ってくれたりした。

一昨年制作に関わった文集本「首都圏在住秋田人100人の物語」に会の何人かに寄稿をお願いした。地主さんもその中の一人。たまたま5月に秋田に行く・・・というので、春の田圃の風景写真をお願いした。その写真を同本3ページに使い、その下の詩を書いた。真土のいい土産だと喜んでくれていたが、こんな早く・・・と思う。ただ、あんちゃ(時々地主さんをそう呼んだ)にそういう場をあげられたこと、少しは孝行になったかなと思う。あんちゃ、どうぞ安らかに・・・。

副編集長 船木 一美 (S48M)